

得た事は、何よりの幸ひであつた。

盛大な茶話會にも列席させて頂き、耳に目にさてはお腹の中にまで、優良の感を得た事はたゞく感謝の外ない次第であります。

日本最高學府の、先生方でありながら、開會以前より終りまでの、御活躍振りは敬服の外なく、大に反省する所が多く、こゝに駄筆ながら所感の一節を呈しました。

(昭八、七、二九、東京にて)

## 「保育の眞諦」を聽きて (一)

京都市 平安女學院保育科

大塚喜一

この夏の講習では倉橋先生から「保育の眞諦並に保育案、保育過程の實際」を題されたる先生獨特の人間味あふるゝお話を承りましたについて、小生にも何か感想を書け、必す出してもらへるものご期待するから、實に身に餘る信頼のお言葉を編輯の方から頂いたのであります。實際、こうして毎日お話を承ります度毎にそれに誘導啓發されてご申しませうか、次々いろいろな考へや感じが湧いて参りまして、今後さう進展して行くか自分でも今一寸豫測し難いのであります。それで、すつかりまごめてからご申してゐてはいつの事かわかりませす(後説参照)それに原稿提出の

期限も定められてあり、なるべく早く出す方編輯の方にも都合がよからうと思ひますので、先づ第一印象を申す様なきを、先生の第一の計畫たるお話の終つた(今日七月二十四日)から記し初めようとして、ペンを止つた次第であります。それ故、これだけを以てあの豊富深遠にして滋味豊かなる先生のお話に對する、あるまごまつた全部の感想であるご云ふのでは決してないのであります。今迄の小生の智識・経験・希望・感激等の渾沌たる心境に、あのお話が今こゝういふ風に映つた、或は、今こゝういふはたらきを及ぼしつゝあるこゝいふまであります。

そこで先づ第一に本誌六月號にて「保育の眞諦」といふ題を見ました時に、非常に期待してこの講習を待ちかまへたのであります。この眞諦といふ語は他の或る雜誌でも見た事がありますが、理論でもなければ外面的に目に見える事實でもなく、口にも筆にも表はし難いほんまの所を指してゐるのであります。しかもいろいろ／＼理論を説き、實際の例を示し、物心両面からあらゆる努力を以て表はさう傳へやう體得せしめようさねらつてゐるのはここなのであります。今迄我々のために親切叮嚀にいろいろ／＼お導き下さつた先生が、今回遂にこのこここいふ生命點を啓示せられるに至つたのであります。

先生がこの至境に到達してゐられるのはもよよりずつこ前からであります。それをこの夏私達にお話して頂けると思ふに、實に有難くむしろ勿體ないやうな氣がしてその眞實の心もちを悟らうこの覺悟を以てこの講習に出席したのであります。

今日の質疑の際に、小生は「保育の眞諦は實行能力でありますから」を申上げましたのは、保育の眞諦とは、實は

我々が幼兒を眞實にふれ合つて行く體驗の中に感得せられるのであるこの意を表はしたかつたのであります。それが出来るやうに今回の講習で手ばさぎをして頂いたのであると考へるのであります。それでこの講習がほんまにわかるまゝのは、これからこの精神を拳々服膺して日々幼兒に接して行く中に、行つて思ひ、思つて又行ふまゝにやうにして段々先生の仰せのところに近づいて行つて、だんだんわかつて來るのであります。ほんまの感想はそれからなければ書けないのであります。今は唯その「千里の一步」もいふべき所でありませう。

あまりむづかしく申してはおわかり難い方があるかも知れませぬので、一寸比喩的に申して見ます。眞諦の諦といふ字のひびきは何か鐘の音をきいてゐるやうな感じがするのであります。名高いお寺に國寶となつてある釣鐘の如きは、眞にその鐘の音色を出し得る力のある人が撞いて甫めてほんまの音を出すまか申しますが、その人がその音をきいてゐる時にその鐘の藝術的價值を心ゆくばかり味得するであります。こゝだ、こゝだ、この音が出なくちゃ！

「快心の笑をもらすでせう。もし他の人がきいてるて」「實にいゝ音ですね、さうしたらそんないゝ音が出るのでせう、私にも教へて下さいね、そして撞かせて頂けないでせうか」云はれた時彼の名人は何も答へるでせう？

保育の眞諦は實にこうした間髪を容れざる所にあるとつくづく思ふのです。今日一三八番静岡幼稚園野々山きみ先生の御質問の際に、小生がついでにお尋ねいたしました時、——教育者も雖も其人格が完全無缺云ふ事は要求出来なないと思ひます。けれども子供とのふれ會ひに就ては、之は、教育者である限りに於ては一ぱいの要求をすべきで、「あなた明日から完全な人格におなりなさい」云つても無理な話であります、教育者も云ふ事はこの子供とのふれ合ひ云ふところを除いては、教育者の存在の意義がないのですからそれを本則として……」

「仰せでしたから、何も特別な名人の例をひかねばならぬ程むつかしいものは限らないでせう。もつと手近な例を以て云へば、先生方が、畫か音楽かお好きな道に多年御精進になり快心の作に佳境に入つてゐられる時に、若

し人から「さうしたら？」と云きかれたら何もお答になるでせうか？たゞひ御自身の努力の跡を回顧しつゝ今日に至つた歴史的發展の徑路を如實に御傳へなさつても、相手の人にこれを受入れる基本的體驗が無かつた時は言葉や文字だけではさてもわかるものではありませんまい。

釣鐘を撞く例にしても、その鐘が永遠の生命を持つてる立派な藝術品であればある程、我々素人が恐る々々靜かに撞いただけでも實にいゝ音を出すであります。その音をきいてゐる時、或程度までその妙味に醉ふ事も又可能なるであらうと思ひます。むしろ、何も知らない素人が撞いてゐるのによくもこんなにいゝ音が出るものか、その鐘の尊さを一層感じるこゝでせう。丁度その様に、子供の内に生長しつゝある生命力は、我々の教育力に比すれば實に偉大でありますから、そのおかげで我々の力の足りないにも拘らず分相應に保育者としての働きを發揮する事が出来、そのふれ合ひ（人間交渉）の中に保育の眞諦の幾分をでも味得する事が出来ることも思はれます。

今回のお話の題に「幼稚園保育の眞諦並に保育案、保育

過程の實際」を記してゐられる故に、こゝに「こゝ」は、實際まで述べて来て、甫はじめて眞諦に至り得るこゝの意味が含まれてゐるこゝまで考へて来た時氣つかせられるのであります。そうしますと、實行し味得しなれば、遙々遠方からこの講習を聴きに來た意義が成立たないこゝが愈々痛感せられるのであります。理論を知つてゐるだけで實行出來なければ役に立たないこゝは、何事につけてもよく云はれますが、こゝでは單にさういふ一般的な點から云つてゐるのではありません。若し、先づ理論が説かれそれに合して實際案が立てられて實行に移るこゝに、理論と實際とが對立的に稍々離れて考へ得られる場合には、理論の研究だけでもそれだけの意義はありませう。先づ目的を立て、

然る後これを對象に當てはめて行かうとする時には、講義の後に實習が来るこゝの順序になるのも又當然かと思はれるのであります。之に反し今回のお話は（先生は講義じやない話だ、特に云はれました）保育實際家たる我々に我々の毎日やつてゐる事は斯くあるべきだとの眞諦を啓示せられたのであります、生きた幼兒の生活を充實誘導發展

せしめて行く保母のはたらきがこのお話の中心でありねらひなのであります。それなればこそ實際家に語られたお話をして特に尊いと思ふのです。

講習の最初の日に、御挨拶色々な計畫に就ての御話ですんで、いよいよ本題に入られる始に、

「これは皆様に對して今更ら、幼稚園保育を云ふものが如何云ふものであるか云ふ事をお話申上げる必要はないのであります、私の考へてゐる幼稚園保育をいふものが、こゝにさういふ風に考へられるのではないかこゝを：もう一度此處に簡單に申上げてみたいと私自身が希望して居るのであります」（本文参照）

こゝに言はれましたのを、こゝでふりかへつて味つて見ますと、私達實際家に語らむさせられる先生のお心もちを幾分うかゞふこゝが出来るやうに思ふのです。

中にもこゝにさういふ意味で特に先生の感銘深かつたのは、幼稚園に於ける保母の位置を尊重せられた事さういひ、三つの大きなまことに分けて述べられたる各章の重點が皆こゝに集中して来て、心もちに生きてゐる幼兒の生活をいたは

り育て、ゆく保母のこまやかな心づかひを先生獨特の人間味あふるゝ態度を以て懇切に熱心に強調せらるゝに至つて「これは私、皆様に特にお願い云ひますが、御相談をしましで、もう一つ幼稚園をさういふ風に變へて行くかさいふ事に重點を置きたいのであります」一人一人の手をさるやうに親しく呼びかけ話しかけられた御態度であります。

一人々々の幼兒の名を呼びながらこの先生を慕つて幼稚園に來たこの子が彼の自己充實の力を遺憾なく發揮し得たか、私がこの子の幼稚園を充分に用意し提供し得たかさいふ保育眞諦に於ける實質上の出席！さいひ、又おかへりの時その日その日の「さよなら」を心もちの上でホントウにして、感情の借金の残らないやう思ふことを云はせ又云ふて、ねんごろに家庭へ送りかへす心づかひさいひ、こうまで如實にはつきりミ我々の生活の典型を表現せられては、誰しも夫々に感銘せられた事ミ思ふのです。實は小生も、嘗て持たせて頂いた子供達の顔が見えて來まして、自分が下手だつただけ一層思ひ出すことが多くあり、感激のあまり急に會ひたくなり、講習がすんでから舊園兒を訪問して昔物語

をしたのであります。ついでに申しますが幼稚園時代の一々の情景をよくもこんなにおぼえてゐたものかミ非常なショックに打たれました。

かうしてお話による感銘により我々の心が搖り動かされて來れば自然實行に現はれて、やがて保母ミしての更生の曙光が必ず來らねばならぬミ思ひます。「おかげで私は保母ミしての生活に甫はじめて光を見出し得ました。まだくこれからです、ミにかくこの調子で行けば樂しき生涯に入れさうだこの希望を見出し得ました。先生、ほんまうに有難うございました」。さいふ様な感謝の眞心を披瀝せられる方が續々ミ出て來る道理だミ思ひます。必ずさうだミ信じます！これは決して小生が申してゐるのではない、今回のお話の中に斯うした活人的效果ミもいふべき心的滋味が豊富に潤澤に内在ないしてゐるのではありませんか。太陽の光が小さな水滴を通じて美しき虹を現出するやうに、保育の知識に於ても體驗に於ても極めて貧弱な小生も尙ほこの光に浴し得る程、それほぎこのお話の價値は偉大であると思ひます。それは講師たる先生の御人格によることミもさより

ですが、このお話が保母のはたらきを本<sup>もと</sup>こしてゐられるからだと思ふのです。はたらきの世界、それは概念や物と物との關係の綜合や分析等いふ様な事を幾度繰返してもそうした材料をきんなに組合せて見ても出て来ません。「概念を以て生命を捕捉せんとするは、水を綱ですくはむとするが如し」こはよく云つたものです。こゝに幼稚園は生きてゐるこいふ眞實の姿があり、既定の方法の入り込む餘地なき刻々の創造性が躍動し、たゞ外形からは或る方法を用ひてゐる様でも實はその方法を生活に歸入せしむる人としてのはたらきがあると思ふのです。こゝした生きた姿を若し文字に現はさむとするならば去年の六月號の保育日誌の如き表現形態となるかと思ひます。先生方は恐らく御記憶でせう、あの「はしがき」に倉橋先生が「幼稚園は生きてゐるこを以て書き始められ、「こゝした生活をしてゐる保母こそは眞に保育の樂しさを味つてゐるのである」。こ結んでゐられるこを——（こゝの所であの最初の二頁を必ずお讀みをお願いしたい）私達は今回のお話を導きこして幾分でもこゝした創造の愉快を味ひたい。萬一今回のお話がたゞ聞い

ただけになつてしまつたり、たゞ或る點に感銘してもその効果が日と共に薄らいで結局聞きつばなしと同じ様な事になつてしまつては、先生に對してこいふより、自分に對してすまない、それではこの自分が生きてゐるのか死んでゐるのかわからんと思ひます。幸今回は講師始め編輯の方の非常な御努力によつて、お話の全文が専門の速記者により記録せられ本誌にかうして載せて頂くこが出来たのは實に私達の爲に強い力となること思ふのです。この筆記を掲載せられるこには言ひ盡し得ない困難のあるこでせう。恰も富士山の雄姿を完全に寫眞機に撮影するこが不可能なやうに、先生のお話の風格の全貌を完全に本誌に再現せしむるこはたゞこひ一語も洩らさず書きこつても尙ほ表はし得ないこころがあるこでせう。しかし岡田紅陽氏の撮影せられた作品がお山の靈氣に打たれた小生の感激の良き思ひ出さなつてゐるやうに、一度先生の御聲咳に接した私達が日々その心を體して幼児に對せむとする時、本誌が如何に良き師であり、友であるこでせう。殊に七月下旬はまだ幼稚園もある爲に遺憾ながらこの講習に出席出来

なかつた方は又々得難き玉文かき尊重せらるゝ事でせう。

こうして本文を基準として今後御互に苦心を語り、質疑を問ひ喜びを分ち合つて向上純化の一道に手ををり合つて参りたいと思ふのです。それが日本幼稚園協會の機關雜誌としての本誌の讀者の使命であると思ふのです。この事は二十五日の茶話會の節小生が立たせて頂いた時申上げやうと思つたのですが、當時はなるべく大勢の方々からお話を聞きたい性質の會合であるから餘り一人で時間ををることも出来ず、誌上でゆつくり書かせて頂いた方皆さんによく読んで頂くことが出来て徹底するだらうと思つたのですから。こゝはそのおつもりで読んで頂きたい。それで、こゝでは内輪のお話としてかねてから思つてゐた所を腹藏なく披露させて頂きますが、さうも今迄本誌に度々書かれて來た事がいつてもそれきりになつてゐて、會員相互にその感想や所説に對する質疑共鳴等さいふ様な交換發表もいふべき縦の連絡のない事です。この文をさう読んでさう感じてさう行はれたかさいふこゝが執筆者にも一般讀者にもちつとも反響して來ないのであります。これでは道の友に

て甚だ物足りない。若し今月の或る方の記事に就て、來月號で他の方がそれを讀まれた感想をか質疑かかひふものがのせられるさいふやうに、誌上の座談會に臨んでゐるやうな「話しあひ」か「書きあひ」か々續々出て來るやうになりましたら、我々の機關雜誌としての性能が確實に有效に發揮せられ、執筆者も毎號同様な顔ぶれだけでなく、廣く一般會員から毎月各方面よりの記事が掲げられる事にならうと思ひます。尤も面々向つて話してゐたらすぐ言へさうなことも、扱て書くこゝなるさ苦心を要するもので、殊に毎日保育に従事し子供が歸つてからも用事も多く自らを養ふ時にも必要な先生方には、一寸原稿を書く餘暇もなか／＼見出し難く、たまに筆を執られても自分の生活の表現さなるさなか／＼思ふ様に書かれないさいふ事もありません。しかし、たまひ一寸した感想もそれを書き表はす事によつてだんだんに生長して來るもので、終には最初書き始めた時には思ひもよらなかつた處にまで發展してゐるこゝが小生等にも度々あります。そうして苦心して書いたものを自ら讀むだけでもなか／＼愉快なものです。まして同志の友に語り

合ふ氣持で貴重な誌上にのせて頂ける事は實に感謝すべき特權だと思ふのです。

さうです皆さん、一つ今回のお話が本誌に掲載せられたのを一轉機として、傍觀的な一讀者から誌上で相見えるお互同志になつて頂きたいと思ふ。こゝしばらくはこの「保育の眞諦」を中心にして互の感想なり體驗なり實行上の苦心困難なり質疑なりを語り合はうではありませんか。お話のつてゐる今月號の何頁のどこを書けばすぐわかるのですから。「私はこゝの所を讀ませて頂いて實に幸でしたその實行の結果かうなりました」私はこゝの所がこゝいふ事情のためにさうも仰せのやうになりくいのです。この外的事情が急に改らないとすれば私の態度をさう變へて行つたらいいでせう？「こゝいふ風に文の長短巧拙に拘らず、眞面目に實行しつゝ苦心して書いたものは誰が讀んでも何か感じ學ぶ點があり各自の精進感を高められる點に於て皆夫々にいづれも劣らぬ價値があると思ふのです。(これは小生が保育實習生の感想を讀む度毎に切實に感ぜさせられる事です)

さうして本年の講習は是等の體驗や感想を本にして更に

その上に指導して頂くこゝが出来ましたら今回のお話は實に聴き甲斐があり、恐らく先生も話し甲斐があつたと思つて頂けるでせう。茶話會の席上で小生が特に講師に對して御禮の言葉を申述べなかつたのは、先生が改つて禮を言つてもらはうとも思つてゐない云はれたからでもあります。實は言葉でお禮を云ふ事が出来なかつたのであります。體驗によつて保育の眞諦を味得したならば——その程度は深淺種々あるにしても——必ず私達の生活が幾分でも向上し純化してこうして先生の御精神を私達自身の身に心に實際に現はして行く事が出来るでせう、それが本當のお禮であると思ふのです。それ以外のお禮の仕様は講師の一方ならぬ御苦勞に對して却つて輕々しくつてすまないといふ氣がして云へなかつたのであります。かくして、私達は此度の先生のお話に對して、是非實行を以て答へたい、それは弟子としての義務さといふよりもむしろ喜ぶべき光榮であるこゝを諸氏と共に深く味ひ、固く心に誓ひつゝ一まつ第一印象としてのこの感想文を結ぶこゝにいたします。(昭和八、八、二、歸省の翌日終稿)